

了雀
解為

過
之
種

秋

中村俊定文庫
文庫 18
520
3



中村俊定



尾、形、亦、子、術、と、ら、し

粟、科、一、貫、と、し、り、十、の、名

月、一、名、漢、と、し、る、名、也

序、名、少、や、お、目、の、名、の、名、也

中、の、名、々、々、人、の、名、也

一、日、正、所、知、り、ま、り、名、也

並、名、と、し、つ、名、と、し、統

相、名、と、し、り、の、名、也

十、色、一、各、名、の、名、也

々、々、名、胡、名、と、し、る、名、也

観、の、名、と、し、る、名、也

筆、名、と、し、る、名、也

画、名、也

西、の、名、と、し、る、名、也

月、の、名、と、し、る、名、也

一、の、名、と、し、る、名、也

道、の、名、と、し、る、名、也

西、上、人、の、名、と、し、る、名、也

名、の、名、と、し、る、名、也

名、の、名、と、し、る、名、也

名、の、名、と、し、る、名、也

一、の、名、と、し、る、名、也

名、也

名、也

名、也

名、也

名、也

名、也

名、也

とくふあや
あやのあや
唯南よ 洗林よ
湯林是而猿虱相争
大厦成而燕雀相喧
こ下行のまるとみわ
あやのあや

牛のあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや

あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや

あやのあや
あやのあや

あやのあや

あやのあや

あやのあや

あやのあや

あやのあや

あやのあや

あやのあや

あやのあや

あやのあや

あやのあや

あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや

あやのあや

あやのあや

あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや
あやのあや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

義仲の
合山の
月一各と
宇護
誼彦と

月一各と
義仲
誼彦と

月代ヤ
義仲
誼彦と

焼ヶ山

義仲の
焼ヶ山
月一各と

月一各と
義仲
誼彦と

月一各と
義仲
誼彦と

月代ヤ
義仲
誼彦と

月一各と
義仲
誼彦と

月一各と
義仲
誼彦と

月一各と
義仲
誼彦と

月一各と
義仲
誼彦と

義仲

名月如氷 氷如天
名月如氷 氷如天

名月如氷 氷如天
名月如氷 氷如天

名月如氷 氷如天
名月如氷 氷如天

名月如氷 氷如天
名月如氷 氷如天

名月如氷 氷如天
名月如氷 氷如天

名月如氷 氷如天
名月如氷 氷如天

名月如氷 氷如天
名月如氷 氷如天

名月如氷 氷如天
名月如氷 氷如天

名月如氷 氷如天
名月如氷 氷如天

名月如氷 氷如天
名月如氷 氷如天

名月如氷 氷如天
名月如氷 氷如天

名月如氷 氷如天
名月如氷 氷如天

名月如氷 氷如天
名月如氷 氷如天

名月如氷 氷如天
名月如氷 氷如天

名月如氷 氷如天
名月如氷 氷如天

名月如氷 氷如天
名月如氷 氷如天

名月如氷 氷如天
名月如氷 氷如天

名月如氷 氷如天
名月如氷 氷如天

新古今
後人の地味な文句
名無しの山崎の
うしろのうしろの
言わぬ言わぬ
必々の生屋
四五十年の
感却丁切

枕の女のこころは
道今月 延光 返
夢

後世の文句は
目には見えない
かたがた

何となくいふ

梨の香は
夢

那をさるる
二字と分るる
古の香

石山れりる

香とよみ
夢

半は中村と

秋月ヤシ

道り
夢

人の短と

こゝろ

詰跡の
夢

おの
後漢書
雀環字子玉
早孤鏡志
野字盡
書傳 銘曰
無道
中何と
翁例
古と

秋月の

夢

石ヤ
三ツの川の源
其の源は
川と名は
川の源は
川の源は
川の源は

平野の原をゆく
霞と夕陽は色を
夕

川よみさし
夕

夕
夕

夕
夕

夕
夕

夕
夕

夕
夕

夕
夕

夕
夕

夕
夕

昔の入口と並ぶ
山根の
夕

夕
夕

夕
夕

夕
夕

夕
夕

夕

夕
夕

夕
夕

夕
夕

夕
夕

夕
夕

石ヤ
三ツの川の源
其の源は
川と名は
川の源は
川の源は
川の源は

夕

甲州の
 所おや一人か
 行所 何れ
 秘なき
 此とよそ

崑崙の代し西り上り代と後
 中つと同一と向ふ西
 君公頼古射の山の神人
 とおれんや

甲州の物に百と云り
 三日月の海京

白鞋の美なりや
 暁の小難うよれ 親の腸
 夢のこ 切の心

ひさ

ひさ

ひさ

ふいと水尻声 一夜の原

客 一 炭つ 向川 東の形

川海や早稲 町の町の色

秋も 神の 名を かくす

楓や 名を かくす 馬込

戸籍 一 三つ 三つ 三つ 三つ 三つ

か 年 左 折 以 今 入 路 ぬ

早く 三つ 三つ 三つ 三つ 三つ

副 三つ 三つ 三つ 三つ 三つ

山中 温泉

山中 や 三つ 三つ 三つ 三つ 三つ

命と 三つ 三つ 三つ 三つ 三つ

ひさ

ひさ

ひさ

ひさ

ひさ

いづのよみかへるものよの百

楊柳とてけりあめの玉水 空

望田 浮城 ありて

朝子よのいほ 静しきよのよ

肌をけりかき 衣の清浄 空

生玉の透りよりとてさる

いづれも ちとあえと 誰はは 空

深し 夢も 桜も 空

そと 古き 新し 花の け 先 始の 終り ち

あやの 古き 花の け

いづれの 月 空

人の 空

西上りの 花の け 空

空

空

空

空

空

空

空

空

空

空

外野
あるは世の上のあり
不世の世にまはる
あせの世にまはる
のるし直にまはる
恣の上のあり 田而
宝の市にまはる
身の自在は何とぞ
ゆんゆん世にまはる
あまも ぬい
とくはれは金所のとく
神宮の世にまはる
凡そはまはる

いんのかつら

いんのかつら

注言のちや

外野のちや

外野のちや

庄十 神解成而天下之人始命争

をら

後新のまのちや

夜をのちや

けつりの月

けつりの月

同もみ

不帝のちや

柳のちや

武水亭

影のちや

南大のちや

古墳

言のちや

わらのちや

田人のちや

まのちや

まのちや

まのちや

可いよのき井きききき

あまのこいしのわん
あま

猿下

猿や言をのこきききき

こいしの猿きききき
あま

竹の木のゆき

迎ふと迎ふよの猿や猿
あま

猿ききききききき
あま

猿や一こいしの猿の猿

あまのこいしと猿の猿
あま

里の猿きききききき

あまのこいしと猿の猿
あま

猿のや一雁のまの何れ

あまのこいしと猿の猿
あま

あまのこいしと猿の猿

あまのこいしと猿の猿
あま

あまのこいしと猿の猿

あまのこいしと猿の猿

あまのこいしと猿の猿
あま

あまのこいしと猿の猿

あまのこいしと猿の猿
あま

あまのこいしと猿の猿

あまのこいしと猿の猿
あま

げんや
人声や
是那海色退乃
多指とそ
神正凡
めま
返照入同卷
憂来誰共語
古道少行人
秋風勤名黍

枯枝
多行
季吟解
芭蕉翁
一派新流
あま活口傳の一章
夫本集

秋のそよ風の音をきく

秋のそよ風の音をきく

秋のそよ風の音をきく

げんや

げんや

人声や

人声や

而の

而の

枯枝

一世

夫本集

是十の
秋のそよ風の音をきく

懐老壯

鬢風遠吹き
秋のそよ風の音をきく

帯の

李母八十歳而生
又玄内篇曰李母懐胎八十歳
又玄少玉母夢流星入口有胎
上玄孫李母昼夜見行
李母曰孫高生也
仁祖通載李母曰又之姓
玉世
とる
あまの

懐ハ
秋のそよ風の音をきく

神つとものゝまもるゝ
長りつゝりやれど
行路の途ま行んと

鈴のやま〜ワル約姓

あおの扇月〜柳

近

ル
ル

